

日本分析化学会第63年会

1 はじめに

日本分析化学会第63年会は、2014年9月17日から19日までの3日間、広島大学東広島キャンパスにて開催された。広島での開催は1993年に開催された第42年会以来である。学会開催の1ヶ月ほど前に、広島市内で局地的な豪雨による甚大な土砂災害が発生したが、実行委員並びに広島地区在住の会員からの被害報告はなく、無事に年会を実施することができた。なお、年會会期中、募金箱を設置し、「広島土砂災害」の被災者への義援金を募った。過日、全額を「日本分析化学会第63年会参加者有志」による義援金として「中国新聞社会事業団」へ届けさせていただいた。皆様のご協力に心より感謝申し上げる次第である。

広島大学の宿泊・交通の不便さにもかかわらず、総講演数は766件（研究懇談会講演、受賞講演、シンポジウム講演を含む）、参加登録者数は1,182名であり、例年どおりの盛会であった。

2 講演

[プログラム責任者：中山雅晴（山口大院理工）・西本潤（県立広島大生命環境）、会場責任者：竹田一彦（広島大生物圏科学）、若手ポスター責任者：浅野比（山口東理大工）・竹内政樹（徳島大院ヘルスパイオ）・藪谷智規（徳島大院ソシオテクノ）]

依頼講演（47件）、一般講演（244件）、若手講演（70件）が、総合科学部講義棟の12会場で行われた。本年度は、ランチョンセミナーの時間帯に、一般口頭発表とポスター発表を行わない方針でプログラムが編成された。それに伴い、多くの会場で3日目の午後まで講演が実施された。

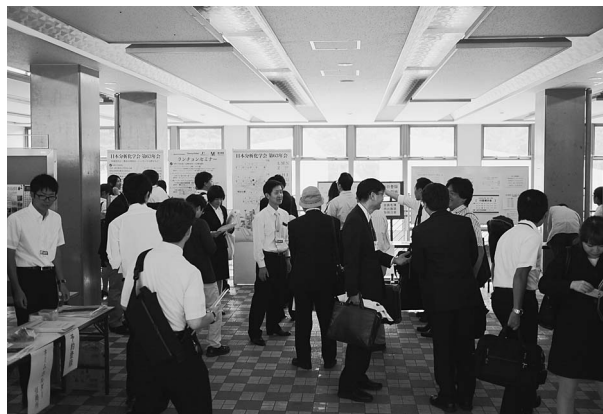
研究懇談会講演は、1日目の午前に8件、午後に8件、2日目の午前に4件、3日目の午前に2件、午後に2件の合計24件が行われた。

ポスター発表は、1日目に若手ポスター発表197件が

行われた。100名近い審査員による厳正な審査の結果、若手ポスター賞18件が選出された。3日目には一般ポスター発表146件とテクノレビューポスター5件が行われた。ポスター会場内に設置可能なボード枚数の都合上、ポスターは前半と後半に分け、休憩時間を挟んです

表1 第63年会分類講演申込および聴講者一覧表

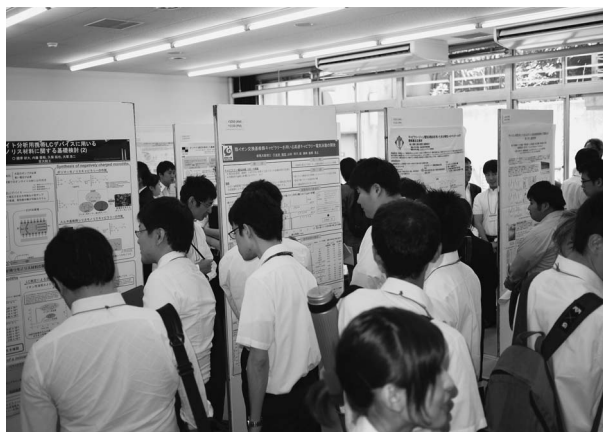
分類	依頼講演	一般講演	若手講演	テクノレビュー	最大聴講者数	一般ポスター	若手ポスター
01:原子スペクトル分析	3	18	1	1	83	15	5
02:分子スペクトル分析	3	9	5		65	9	23
03:レーザー分光分析	2	4	3		40		2
04:X線分析・電子分光	3	9	1		60	5	12
05:放射化学分析							
06:NMR, ESR, 磁気		1			24		
07:電気化学分析	4	15	8		42	3	11
08:センサー	2	10	5		50	4	5
09:熱分析						4	
10:有機微量分析						1	
11:質量分析	1	8	5		43	7	7
12:マイクロ分析系	2	13	2		43	2	9
13:FIA	2	7	7		47	3	8
14:LC	2	7	2		44	17	18
15:GC		3			60	1	2
16:電気泳動分析	2	3	1		40	4	3
17:溶媒・固相抽出法	3	10	3		54	6	21
18:分離・分析試薬	1	7	2		54	4	4
19:分析化学反応基礎論		5			15	2	
20:データ処理理論						1	
21:標準試料		3			13	2	
22:サンプリング、前処理		1			12	4	
23:界面・微粒子分析	4	36	6		40	4	20
24:宇宙・地球	3	18	4		45	2	4
25:地球環境関連分析	3	16	4		45	17	18
26:無機・金属材料分析		2			19	5	
27:有機・高分子材料分析	2	6	2		51	3	1
28:生体・医薬・臨床	1	7	2		49	10	6
29:バイオ分析	4	25	7		75	9	13
30:その他		1			24	2	5
合計	47	244	70	1		146	197



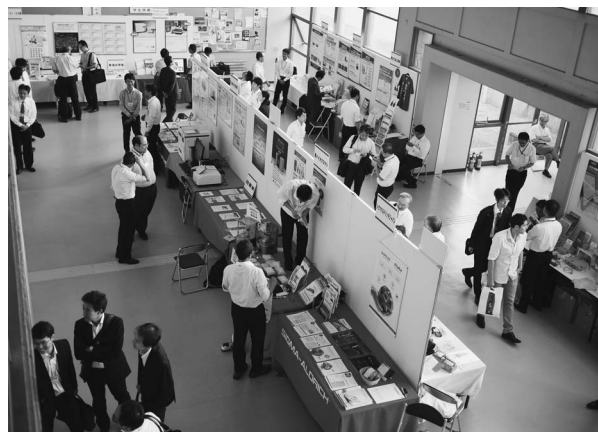
年会受付



講演会場



ポスター会場



企業展示会場

すべてのポスターを張替えて1日に2回行う方式で実施した。但し、ポスターボードは間隔を開けて設置し、隣同士の発表に支障がないように配慮した。

3 特別シンポジウム

今回の年会では、本部企画の「第1回アジア分析科学シンポジウム2014」ならびに「産業界における研究開発と分析ソリューション」シンポジウムに加え、第63年会実行委員会企画のシンポジウムとして「異分野との接点を求めて」と題し、三つのテーマを設定し第1部～第3部の特別シンポジウムが開催された。

(1) 「第1回アジア分析科学シンポジウム2014 (1st Asian Symposium on Analytical Sciences)」(9月17日午前～19日午前)

[オーガナイザー：内山一美(首都大院都市環境), 最大聴講者数40名]

寺前紀夫会長による Opening address の後、分析化学の第一線で活躍中のアジア地域の研究者による、Plenary lecture (3件)、Keynote lecture (8件)、Invited lecture (10件)が、3日間にわたって行われた。

(2) 【特別公開シンポジウム(「産業界における研究開発と分析ソリューション」シンポジウム)】

—企業の研究開発を最前線でリードする分析化学—
(9月17日午後)

[オーガナイザー：加納健司(京大院農)・千葉光一(産総研)・脇阪達司(花王), 最大聴講者数100名]

渡邊裕幸(富士フイルム)、宮野博(味の素)、岸本浩通(住友ゴム工業)、松野信也(旭化成)、杉山昌章(新日鐵住金)脇阪達司(花王)の6名の講師の方々に、分析化学が企業の研究開発・商品化をどのようにリードし、どのような事業貢献をしているかについての実際を紹介していただいた。講演終了後、第63年会ミキサー会場にて産業界シンポ交流会が開催された。

(3) 特別シンポジウム：異分野との接点を求めて

〈第1部〉「単一分子分光の最先端」(9月17日午前)

[オーガナイザー：朝日剛(愛媛大院理工), 最大聴講者数50名]

Martin Vacha(東工大院理工)、柴田稯(東北大院理)、伊都将司(阪大院基礎工)、Vasudevan P. Biju(産総研)の4名の講師の方々による講演が行われた。

〈第2部〉「核酸・バイオ研究と分析化学」(9月18日午

前)

[オーガナイザー：紙谷浩之(広島大院医歯薬), 最大聴講者数60名]

小松康雄(産総研生物プロセス)、紙谷浩之(広島大院医歯薬)、大山隆(早大教育・総科学術院)の3名の講師の方々による講演が行われた。

〈第3部〉「放射光分析の新技术・新応用」(9月19日午前)

[オーガナイザー：高橋嘉夫(東大院理), 最大聴講者数60名]

早川慎二郎(広島大院工)、松尾光一(広島大HiSOR)、片山哲夫(JASRI)、岡本芳浩(JAEA)、阿部善也(東理大理)の5名の講師の方々による講演が行われた。

4 付設展示会、ランチョンセミナー、テクノレビュー

総合科学部講義棟1階のラウンジにて、付設展示会が開催された。今回は機器展示に26社(29ブース)、書籍販売に1社、カタログ展示に4社(5件)のご協力をいただいた。本年度は、口頭発表、ポスター発表を含むすべての発表を総合科学部講義棟内で開催したため、展示会場は多くの来場者で賑わっていた。

1日目と2日目の昼に、5社によるランチョンセミナーが開催された。お弁当を食べながら各企業の最新技術や商品に関するセミナーを聞くことができる大変魅力的な企画であり大変好評であった。また今回の年会では、テクノレビュー講演(口頭)1件、(ポスター)5件が行われた。

5 学会賞授賞式、学会賞講演など

学会賞授賞式ならびに学会賞受賞講演は、総合科学部講義棟L102教室にて行われた。寺前紀夫日本分析化学会会長の挨拶の後、学会賞、奨励賞、学会功労賞、技術功績賞、先端分析技術賞(JAIMA機器開発賞、CERI評価技術賞)、有功賞の審査結果が各審査委員長から報告され、受賞者に賞状と副賞が授与された。授賞式の後、有功賞受賞者の記念撮影が総合科学部講義棟正面玄関前にて行われた。その後14時20分より、大塚浩二氏、谷口功氏、前田瑞夫氏により学会賞受賞講演が行われた。技術功績賞の下山昌彦氏、田口正氏、樋口慶



学会賞授賞式

郎氏、奨励賞の新田英之氏、一番ヶ瀬智子氏、伊野浩介氏、佐藤雄介氏、末吉健志氏、JAIMA賞の井上嘉則氏、国村伸祐氏・河合潤氏、CERI賞の垣内隆氏の受賞講演は、関連する一般講演会場で行われた。

6 ミキサーおよび懇親会

ミキサー〔責任者：早川慎二郎（広島大院工）〕は、1日目の18時30分より141名の参加を得て、広島大学東広島キャンパス西食堂にて行われた。若手ポスター賞受賞者はミキサーに無料招待され、会場内で表彰式が行われた。西条の地酒、お好み焼き、広島付け麺なども提供され、交流が大いに盛り上がった。

懇親会〔責任者：西博行（安田女子大薬）〕は、2日目の18時30分より、ホテルグランヴィア広島（広島市南区松原町1-5）にて開催された（参加登録者278名）。司会進行は西博行氏が務めた。藤原照文年会実行委員長、寺前紀夫会長、ならびに来賓の吉田総仁氏〔広島大学・理事・副学長（研究担当）〕の挨拶の後、ステージ上に広島を代表する酒造メーカーの一つである賀茂鶴酒造の樽が用意され樽酒鏡開きが行われた。会場内の各テーブルにも同じ樽酒が準備され、広島大学名誉教授の熊丸尚宏氏のご発声のもと、酒処らしく日本酒による乾杯で懇親会が開宴した。また会場内の屋台では、広島風お好み焼き、出雲そば、瀬戸内海の魚を用いたお寿司などが提供され大変好評であった。途中、中国地方の伝統芸能である神楽（演目：八岐大蛇）が催された。会の終盤では、次年度開催予定の第75回分析化学討論会の川久保進実行委員長（山梨大院医工）、第64年会的山田淳実行委員長（九大院工）より挨拶をいただいた。最後に、伊藤一明中国四国支部長（近大工）の挨拶で閉会した。

7 その他

第5回生涯分析談話会〔世話人：田端正明（佐賀大）・長谷川佑子（東理大）〕が1日目の午後に開催された。この談話会は、分析化学会員が退職後も学会に参加し、相互の交流と親睦をはかることを目的としており、今回は、徳島大学名誉教授の池田早苗氏による講演と懇親会が行われた。

2日目の昼に、公開セミナー「女性研究者ネットワークセミナー」〔世話人：金澤秀子（慶応大薬）〕が広島大学男女共同参画推進室・広島大学「女性研究者研究活動



懇親会：熊丸名誉教授による乾杯のご発声



ミキサー：若手ポスター賞受賞者

支援事業（拠点型）との共催、東ソー株式会社の協賛で開催された。会場ではお弁当が提供され、相田美砂子氏（広島大院理）による講演が行われた。

また、託児所は利用申し込みがなかったため実施されなかった。

8 おわりに

まず、年會に参加された会員のみならず、ならびに展示に出展していただいた企業関係者の皆様にお礼申し上げます。大きなトラブルもなく無事に年會を終えることができたのは、準備や当日の運営等にご尽力いただいた日本分析化学会中国四国支部の皆様と学生アルバイトの皆様のおかげである。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本年會では、第62年會（近畿大学）から始まった発表形式である若手ビギナー口頭（講演7分、討論3分）を継承するとともに、学会活性化戦略委員会からの提言に盛り込まれていたPI（Principal Investigator）講演に相当する依頼講演（講演15分、討論5分）の発表件数を増加させ（47件）本格的に実施した。また、新たに本部企画の「第1回アジア分析科学シンポジウム2014（1st Asian Symposium on Analytical Sciences）」ならびに、「産業界における研究開発と分析ソリューション」シンポジウムを開催した。今後これらの企画が継承され、年會がますます活性化することを期待する。

〔広島大学大学院理学研究科 藤原照文
広島大学大学院理学研究科 石坂昌司〕